

# コロナ禍で学ぶ日本人留学生

## ◆日本人学生◆ 海外在住及びオンラインでの留学事情について

海外留学を希望した日本人学生がコロナ禍でどのように過ごしたのか、学生レポーターに寄稿して頂いた。



神戸芸術工科大学 / プロダクト / インテリア / デザイン学 / 科 / 雑貨 / カリデザインコース3年 / ベルリンヴァイセンゼー美術大学へ、2021年10月から派遣交換留学中。(2022年6月まで留学予定。)

■ 矢野 いづみ

### 1. 海外で学ぼうと思った理由

高校では、英語で海外の文化や経済、問題について学ぶ学科に所属していました。周りに帰国子女の友達が多く、海外の人と話す機会も多かったため、自然と海外に興味を持ち、大学生になったら留学したいと思っていました。神戸芸術工科大学へ入学を希望した理由の一つは、本学の交換留学制度です。入学時から、交換留学を目指して授業はもちろん、課外プロジェクト等に取り組んできました。ドイツは、パウハウスのデザイン教育から始まり、優れたプロダクトデザインを多く生み出していることから、実際にドイツの大学に行って、自分の専攻分野を学びたいと思いました。

### 2. 授業の様子

ガラスのプロダクト制作の授業を取っていて、学外のガラス工房や美術館に行くなど校外学習も多く、とても良い経験になっています。空の色をテーマにしたキャンドルグラスを製作しました。初めての経験だったので、思っていた色と違う色になったり、思ったように色がつかないなど、予想通りにならないこともありましたが、それも含めてとてもいい経験になりました。また、職人さんの仕事を実際に間近に見ることで、身近なガラスという素材への理解も深まりました。2度目の試作ということで今回は色にフォーカスを当てて、製作しました。日本にいるときにとっていた空の写真



空の色をテーマにしたキャンドルグラスを製作しました。初めての経験だったので、思っていた色と違う色になったり、思ったように色がつかないなど、予想通りにならないこともありましたが、それも含めてとてもいい経験になりました。また、職人さんの仕事を実際に間近に見ることで、身近なガラスという素材への理解も深まりました。2度目の試作ということで今回は色にフォーカスを当てて、製作しました。日本にいるときにとっていた空の写真

### 3. 矢野さんのある1週間

日	土	金	木	水	火	月	AM	PM (18時)	PM (18時~0時)
		授業の予備準備	市内散策	ガラス授業				ガラス授業	ドイツ語の自己学習
		買い物	デザインスケッチ授業	授業課題				授業課題	友人と食事
		美術館巡り							友人と食事



を使い、空の色をガラスで表現しました。色を思ったように表現するには、職人さんとの細かい打ち合わせが必要になるため、あらかじめ細かいスケッチを用意して、それを見せて話し合いをした上で、製作しました。また、実習がない日の授業では、実習でおこなった内容のデイスカッションや、割り当てられたテーマ色のプレゼンテーションを行います。大学院生と学部生が混ざっているため、とてもレベルの高い内容となり、良い刺激になります。



### 4. 日常生活

ドイツ人はもちろんのこと、他の国の人との日常的な出会いに、大きく刺激を受けていると思います。私の他にもたくさんの国から留学生が来ていて、お互いの国の文化や言葉についてよく話します。今まで知らなかったような文化の違いや意外な共通点を知ることができて、新しい発見が日々あります。また、日本のことについて聞かれると意外と答えられないことも多く、今までは違った視点から自分の国について考える良い機会となっていると思います。時間がある時は他の留学生の友人と美術館巡りや近隣探索をしたり、お互いの国の料理を作って一緒に食べたりしています。友人とのコミュニケーションはほとんどが英語です。授業中は、ドイツ語が中心ですが、私のために、先生や他の学生が英語をおりませながら話してくれるので、理解することが出来ます。しかし、地元のレストランやお店などで英語が通じない場合もあるので、自分でドイツ語の勉強もしています。



## 5. コロナ禍での勉強

### ① 渡独前

事前にワクチン接種を2回行い、接種証明書（英語表記）を準備しました。また、出発前に羽田空港でPCR検査も受け、陰性証明書を準備しました。

### ② 渡独後

現地でワクチンパスポートを取得しました。ベルリンでは、お店やレストランに入るために、ワクチンパスポートの提示が必要で、最近はこちらに規制が厳しくなっており、レストランに入るには接種証明に加えて、陰性証明も必要になりました。

### ③ 派遣先大学にて

大学のエントランスでは無料で簡易の検査を受けることができます。入り口には体温計が設置されていて、校内のいたるところに消毒液が設置されています。大学内の学食に入るにはワクチンパスポートの提示が必要です。校外での授業の際は各自で検査を受けることが必須です。

### ④ コロナ禍で不便に感じていること

どこに行くにもワクチンパスポートを提示しないといけません。また、最近接種証明に加えて陰性証明も必要な場合があります。授業も実際の製作の日以外は基本的にオンラインで行っています。

### ⑤ コロナ禍で逆に便利に感じていること

オンラインでのディスカッションやプレゼンテーションが多いのですが、英語がそこまで流暢ではない私にとっては、むしろ緊張せずに話すことができます。スライドなども直接画面に共有されるのでむしろ見

やすく、ドイツ語でわからない時も調べやすく助かっています。



神田外語大学 / 外国語学部 / アジア言語学科  
／韓国語専攻3年

■ 小山 莉佳

## 私の留学生生活

### 1. きっかけ

韓流ブームが広がり、韓国語や韓国の文化などは若者にとって身近なものになりつつある。私も韓国語に興味を持ったのはKPOPがきっかけである。中高時代にダンス部に所属していたこともあり、韓国のアイドルたちの完璧なパフォーマンスに憧れを抱いていた。音楽に興味を持つと同時に歌詞を理解したくなり、語学にも興味を持った。語順が同じで似ている単語や漢字語もある韓国語は、私にとって勉強しやすく、もともと本格的に勉強したいと思うようになった。そして、大学受験を控え、志望校を考える中で、私は、韓国語なら自分から進んで学べると思い、韓国語専攻のある大学を選んだ。

大学入学当初は、漠然と留学できたらいいなと考えていた。しかし、学年を重ね、勉強していくうち、読み書きは日本でもある程度学べるが、会話の機会を増やして話す力をつけるために絶対に留学したいという気持ちに変わった。大学で韓国の歴史や文化を学ぶにつれて、習ったことを自分自身で確かめたくなったこともあり、留学を決意した。

## 2. 授業の様子

対面の授業を選んだにも関わらず、新型コロナウイルスの影響もあり、全てオンラインでの授業になってしまった。私は、語学堂（韓国語の語学コース）の授業ではなく学部の授業や留学生向けの授業を受けることにしたため、あまり詰めて履修をせず合計4つの授業を取った。その結果、オンライン授業であることを活かし、授業を何度も聞いて復習をきちんと行い、わからない単語はその都度調べるなど、一つの授業に多くの時間を割くことができ、授業に十分ついていくことができた。



留学生向けの授業では、語学堂を終えた正規留学生がほとんどであり、韓国で就職するための自己紹介書の書き方や論文の書き方、韓国の歴史や文化を学んだ。日本とはまた異なった韓国独自の書き方や形式があり、これらは韓国でしか学べないので、貴重な経験だった。歴史と文化の授業は、日本で勉強したよりも深い内容で、また、教授自身が実際に体験したことなども話してくださったので、より伝わりやすく、分かりやすかった。歴史的な建造物や世界遺産などに直接足を運ぶことができなかったのは残念だが、その分解説を丁寧にしてくださるとともに他の国とも比較しながら説明してくださり、楽しく学ぶことができた。

学部の授業では、日中韓共通の漢字を学ぶ授業や、詩を書く授業を受けた。漢字の授業では、日本・韓国・中国に共通して使われる漢字を成り立ちから学んだり、部首について学んだり、古事成語について学んだりして、漢字についての知識を深めることができた。詩を書く授業では、韓国の現代詩について理解し、韓国の詩で使われる表現や形を学んだ。それを元に実際に自分でも詩を書き、その詩を学生同士で評価し合うという今まで受けたことのない授業の形で、ついていくのは少し大変だったが、実際に詩を書き、良い評価を受けた時は、韓国語力が認められた気がして達成感を得ることができた。

授業全体を通すと日本よりも学生に発言させるなど、学生の意見を中心に授業を進めている感じを強く受けた。対面であれば、より発言の機会が増えていたのだろうと思った。

オンライン授業のため学校に行くことはなく、基本的に授業は家で受けていた。午後からの授業が多く、午前中は予習や課題をして、午後は授業を受け終わったら復習をするという平日を過ごした。土日は、オンラインの語学プログラムで知り合った韓国人の友達と一緒に過ごし、留学生のプ

## 3. 留学中の一週間

オンライン授業のため学校に行くことはなく、基本的に授業は家で受けていた。午後からの授業が多く、午前中は予習や課題をして、午後は授業を受け終わったら復習をするという平日を過ごした。土日は、オンラインの語学プログラムで知り合った韓国人の友達と一緒に過ごし、留学生のプ



オンラインの語学プログラムで知り合った韓国人の友達と一緒に過ごし、留学生のプ

プログラムに参加したりと、外に出て色々な人と交流を持った。また、趣味であるダンスを習いにダンススタジオに通うことができた。そこには様々な国の人たちが習いに来ていて、国や言葉が違ってもダンスという共通のものでみんなが一つになって踊ったことが、とても楽しく、良い思い出になった。

#### 4・韓国での生活

今回の留学で私は初めて一人暮らしをした。コロナウイルスの影響で交換留学生は寮に入れない状況の中、留学が決まり現地に行けない状況の中で家探しを始めた。初めて一人暮らしが韓国ということもあり、少し値段が高かったが日本のマンションのような家に決めた。セキユリテイもすっかりしており、また、管理人の方や掃除の業者も入っていて安心して暮らすことができた。しかし、やはり日本と異なることも多く、戸惑うことも多かった。例えば、

引越してきた当初、以前住んでいた方が残っていた物が多くあり、それらを処分したり掃除したりするところから入居が始まったり、湯船がなくトイレとシャワーが同じ部屋だったりと文化の差を実感した。また、綺麗な建物で上層に住んでいたにも関わらず、虫が多く、冬になっても出てくるのが私にとって苦痛だった。日本の生活に慣れていないため違和感を感じると嫌になることも多かったが、このような経験が自分を成長させてくれたと実感している。

#### 5・コロナ禍での留学

コロナウイルスの影響で海外への渡航が制限されている中で留学に行くということは、とても不安であり、隔離や必要な書類が増えて大変であったが、貴重な体験

であったと今では思える。コロナ禍以前の留学よりは語学を使う機会が少なかったと思うが、オンラインでの授業で聞き取りの力はついたと実感している。留学してもオンラインならば意味がないのではと最初は思っていたが、やはり現地で暮らすというのは全く日本とは異なるし、韓国語に囲まれて生活することによって、日本での勉強だけでは学べないことが多くあった。私はこのような状況下でも留学ができて良かったと心から思っている。

#### 6・留学してみても

この留学を通して私は感じたことが二つある。一つ目は、韓国人の優しさである。

韓国にはこれまでも何度か旅行した経験があったが、その時はまだ韓国語がわからず、知っている単語をなんとなく話してみただものの、首をかしげられたり、店で少し冷たい接し方をされたりした。その時は、やはり日本人はマイナスイメージなのかと感じることもあったが、この留学では全くそのように感じることはなかった。語学力もつき、簡単な会話であれば話しかけられてもしっかりと答えることができるようになる。そこから会話が進んだ。日本が好きだと言ってくれたり、韓国語が上手だと褒めてくれたりと、優しい人が多かった。若い人だけでなくお年寄りの方も日本人の私たちに対して店の利用法を自ら教えてくださった。日韓の国同士は時折対立することもあるが、人同士はみんな好きだし仲良くしたいと言ってくれる方が多く、少し意外であったがとても嬉しかった。私は、言語が違うだけで大きな壁ができ、逆に言語が通じるとこんなにも分かり合えるのだということ学んだ。

そして、もう一つ感じたことは、周りの人への感謝である。日本から近い距離にあるがコロナウイルスのために渡航が難しいため簡単には行き来ができない。そのような中で、心配してこまめに連絡をくれた家族や友人、色々な先生や留学担当の方々の力があつたからこそ、私がこのような状況の中でも留学に行くことができ、無事に帰って来られたのだと思う。周りの人の協力や応援が私の留学に行きたいという願いを叶えてくれたのだということを実感できたのは、このような時期だからこそ、さと思うので、当たり前だと思わずにしっかりと感謝したいと思う。

留学生活で学び感じた多くのことを、この先もしっかり活かしていきたいと思う。



神田外語大学／外国語学部／アジア言語学科  
／韓国語専攻3年

■ 上原 美咲

#### 〈韓国語を学ぼうと思ったきっかけ〉

高校生の時、私は常に進路について悩んでいました。やりたい事がたくさんあつて絞ることができず、どの大学に行くのが良いかわかりませんでした。そのため、受験も思うようにいかず、両親に浪人するチャンスももらいました。一年間、自分自身でよく考え、学びたいものを探すことから始めました。そして学びたいと思ったものが韓国語でした。私は色々なものに興味がある反面、飽きっぽいところもあるのですが、母の影響で幼い頃から接してきた韓国のドラマや音楽などは決して飽きたり、嫌だと感じたりすることはありませんでした。

た。そこで、韓国語を習得したいと考え、韓国語専攻のある神田外語大学に進学しました。言語の勉強には終わりがなく、常にたくさん発見があるので、大学で言語を学ぶ選択をして良かったと思っています。

#### 〈コロナ禍での留学〉

コロナ禍での留学に不安もありましたが、私は大学に入る前から絶対に留学したいと考えていたので、こうして無事留学生活を送ることができてことに感謝しています。両親も背中を押してくれましたし、一緒に留学する仲間がいたのも大変心強かったです。

入国してから14日間は隔離生活でしたが、「こんなに休むことができる機会はないかもしれない」と肯定的に考えるようにして、たくさん休養を取るとともに充実した時間を過ごすことができました。

コロナ禍での外国生活ということで、不自由なことや大変なこともありましたが、例えば、韓国では店に入る時にQRコードが必要なのですが、そのQRコードは外国人登録証がないと発行しても

られないと発行してもらえない。そのため、外国人登録証が発行されるまでは、毎回、店に置いてあるノートに電話番号



昌徳宮

号などを書かなければなりませんでした。また、最近制限が厳しくなり、ワクチンを接種していないと店に入ることができなくなったので、QRコードにワクチン接種完了の表示をするための手続きも必要でした。さらに、ワクチンを2回接種していても6ヶ月経つとワクチンを接種していかないといけないので、3回目の接種をしなければなりませんでした。1・2回目よりは軽い症状でしたが、3回目のワクチン接種時も副反応がありました。海外での発熱ということで、いつもとは違う不安を感じましたが、日本で一人暮らしをしてきたこともあり、うまく乗り越えることができました。留学生活は外国人として生活するという日常とは異なる経験である上、今回はコロナウイルスの影響もあり、少なからず大変な思いもりましたが、この時期に留学したからこそ、普通では経験できないことを経験できているのだと前向きに捉え、楽しみながら生活しています。

### 〈授業について〉

授業は1日に1〜2科目程度受けていました。韓国の学生と一緒に受ける授業はレベルが高く難しいのは当然ですが、一番大変だと感じたのは外国人のための授業でした。同授業は、コロナ禍のため国外で



国立ハングル博物館

### 受講する学生が多い

生が多いことからオンライン授業であり、韓国語のレベルもそれぞれ違ったので、グループワークなどで他の人の発言を聞き取ったり、自分の考えを伝えたりすることがとても難しかったです。他方、その授業のおかげで、わかりやすく正確な発音を心がけるようになりました。



キムチ漬け体験

また、一年の留学のうち最初の半年は、慣れるために『日本のドラマ』や『日本文学セミナー』などの授業も受講しました。韓国の学生と日本について学ぶ機会はなかなかないので、とても貴重な経験になりました。これらの授業では、先生方に日本について質問されることもあり、普段使っている日本語でも、いざ意味を聞かれると説明できなかったり、いままで意識していなかった日本の文法について考えたりと、韓国語を勉強しながら日本語の勉強にもなりました。『日本文学セミナー』では、芥川龍之介などの作品が取り上げられたのですが、日本人の私にとっても理解が難しかったり、知らない日本語表現が出てきたりととても苦労しました。また、『日本のドラマ』も『日本文学セミナー』も、日本語を韓国語に訳す際にピッチリと当てはまる単語がないことが多く、それをどのように表現するのか、韓国の学生はどのように訳すのか、授業を通して知ることができ、大変勉強になりました。

### 〈留学をして学んだこと〉

留学を通して様々なことを学びましたが、韓国に来て一番感じたのは、頼ることの大切さです。韓国に来たのが初めてということもあり、様々な手続きをする際に不安でした。そのような時に一人で頑張ろうとするのではなく、韓国の友人と一緒に留学に来た仲間を頼ることはとても大切だと感じました。そこで、わからないことがあつたらすぐ聞くようにしました。友人だけでなく、店でわからないことがあつたら店の方に尋ねたり、聞き取れない韓国語があつたら教えてもらつたりしました。契約などをする時、全て自己責任になるので、わからないものはわからないままにせずに聞くという習慣ができました。この点は生活面だけでなく韓国語学習においても大切にしています。

また、考え方も変わったと思います。留学に来るまでは、独りで過ごす時間が好きで家にいる時間が長かったのですが、せっかく韓国に来ていられるのだからと考えるようになり、自分から韓国の友人を遊びに誘って積極的に出かけるようになりました。また、韓国の友人だけでなくそれ以外の国の友人とも遊ぶようになり、交流の幅も広がりました。

### 〈就職活動について〉

留学する際に少し気掛かりだったのは就職活動です。コロナ禍で当初希望していた時期に留学できなくなってしまい、3年の後期から4年の前期という就職活動とちようど重なる時期に留学することになったので、正直なところ今でも不安はあります。しかし、同じ時期に留学し、帰国後に就職活動を始め、就職が決まった先輩方がたく

さんいるという話を聞いていたので、「なんとかなる」「なんとかする」という心境です。留学したことによってやりたいことが明確になったので、私は留学に来て本当に良かったと思っています。

また、神田外語大学のキャリア教育センターの先生とZoomで面談をし、これからのように就職活動をすれば良いかアドバイスも頂いています。コロナ禍だからこそZoomなどを活用した就職活動もできるようなったので、この環境を強みに、少しずつ自分のペースで就職活動を進めていきたいと思っています。



神田外語大学／外国語学部／アジア言語学科  
／韓国語専攻4年

■ 木村 雪花

### 韓国と私

私が韓国語を学ぼうと思ったきっかけは、韓国ドラマを字幕なしで鑑賞できるようになりたいと思ったことです。このような日常生活の何気ない出来事がきっかけで韓国に興味を持った私ですが、今では不由自主なく韓国語を理解し、そして話すことができるようになりました。その経過についてお伝えしたいと思います。

はじまりは小学生の頃でした。母が見ていた韓国ドラマと一緒に観ているうちに韓国の文化にも興味を持つようになり、やがて韓国語を学びたいと思うようになったのです。そして、高校受験が済んだ後は、知り合いの韓国人の先生に韓国語を教えてもらいました。高校時代には、韓国語のスピー

チコンテストに出場したり、韓国の姉妹校との交流に参加したりといった経験を通して、韓国人の友達がたくさんできました。韓国人の友達ができると、もっと上手に会話ができるようになりたいと強く思うようになり、今まで以上に韓国語の勉強を頑張りました。そうすると、ますます韓国に興味を持つようになり、韓国で生活したいと思うようになりました。

他方、高校卒業を前にして、直接韓国の大学に進学するか日本の大学に進学して留学するかということ、日本の大学に進学する場合に専攻言語を韓国語にするか他の言語にするかということについて悩みました。高校3年の時点で私の韓国語は大学卒業要件レベルにまで達しており、韓国語能力試験(TOPIC)の5級も取得していたので、大学では他の専攻言語を選択することも考えたのです。最終的には、韓国に留学したいという気持ちが強く、また、神田外語大学には日韓双方の大学の卒業資格を得ることができるダブルデグリー制度があったので、神田外語大学の韓国語専攻に入学しました。もし、この時点で他の専攻言語を選んでいたら、より多くの言語を話せるようになっていたかもしれません。韓国語専攻で多くの素晴らしい友達に恵まれて多くのことを学ぶことができたので、後悔していません。

私の留学生活はコロナ禍の影響で1年遅れてしまい、大変なことも多々ありましたが、現在は充実した留学生活を送っています。私の場合、韓国の大学での履修を1年後ろ倒しにして開始したのですが、さらに履修開始後の1学期目はコロナ禍の影響で韓国に渡航できず、日本でオンライン授業を受けました。初めて韓国の授業を受け

たとき、これまで受けていた授業と比べてスピードが速いと感じました。母語ではないので多少の苦労はあると思っていました。韓国語の授業で出てくる韓国人なら誰でも知っている言葉の意味が理解できないなど、想像以上に苦労しました。私自身、韓国語が得意な方だと思っていたので最初は戸惑いましたが、日本にいながら韓国人の韓国語の使い方やニュアンスなど様々な知識を身に付ける良い機会になりました。

やっと韓国に入国することができたのは1学期が終わってからでした。コロナ禍で、しかも2学期からの韓国での勉強ということで不安もありましたが、今までやりたかったことを実現する機会なので諦めようとは思いませんでした。両親も私のやりたいことを後押しし応援してくれたので、その期待に応えたいと思いました。

そして、コロナ禍の影響で私の想像とはかけ離れた大学生活が始まりました。韓国では一部対面の授業も行われていたようですが、私が受けた授業はすべてZoomでの授業でした。Zoomでの授業は日本でも経験していましたが、韓国では寮の二人部屋で授業を受けたので、ずっとイヤホンをしなければならなかったり、お互いの音が気になったり集中して



学校内を散歩している時に撮った写真

授業を受けるのに適した環境とは言えませんでした。他方、韓国ではカフェ文化が発達しており、学校周辺のカフェでは必ずと言ってよいほど学生たちがパソコンやタブレットを持って授業を受けている姿を見かけます。私も授業時間外に話し合いをするときや集中できないときには、カフェなどを利用していました。

ところで、非対面授業の思わぬ効用として、絶対評価の適用を挙げることができそうです。韓国は競争社会であり、また、韓国の授業はグループワークや発表の機会が多いこともあり、多くの場合、相対評価が適用されているのですが、相対評価だと普通に頑張っているだけでは良い評価はもらえず、他人と競争して相手よりも良い点数を取らなければならないので、学生にとってはストレスにもなります。しかし、非対面授業には絶対評価が適用され、自分さえ頑張れば良い評価をもらえるので安心してました。

基本的にどの授業も進むのが速く、また、グループワークの授業をはじめとして課題も多かったため、授業期間中は週末も休まずに勉強することが多かったのですが、少し余裕ができた日は友達と食事をしたり遊びに行ったりして息抜きをするようにしました。入国当初は学校に友達はいませんでした。高校時代の姉妹校交流で知り合った韓国人の友達や韓国で出会った新しい友達に助けられながら、自分なりに充実した生活を送りました。

海外で生活していると、今まで見えなかった自国の良い点や改善点などがおのずと見えてきました。韓国は食生活や生活環境などにおいて比較的日本と似ている部分が多く生活しやすい方だと思いますが、

秋夕の時期(韓国のお盆)、友達と水原華城に行った時の写真



実際に生活してみると気になる部分や慣れないことが出てきて、気持ちが高揚せず憂鬱になった時期もありました。そこで、私は新しい趣味として散歩をするようになりました。部屋にこもりきりだと憂鬱な日々が続くだけだと思い、時間があれば外に出て学校の周辺を散歩したり、電車に乗って少し遠くまで買い物に行ったりしました。授業期間が終われば長期休暇に入ってから自分の時間が増えたので、「自分は何かができるのか」、「今だからこそこできることは何か」、「自分は何がしたいのか」などについていろいろと考えた上で新たな目標を設定しました。そして、早速、その目標を達成するための勉強を始めたところです。

最後に、コロナ禍で海外との繋がりが少なく大変な時期が続いていますが、これから留学を考えている方は海外留学を諦めないで欲しいと思います。もし、私が留学を

諦めていたら一生後悔したと思いますし、ここ韓国でのたくさんの出会いと経験は必ず後に生きてくるものだとは私は信じています。私自身、この留学を通してどんなことでも諦めずに挑戦することが大切だと身をもって感じましたし、今だからこそできることはたくさんあると思うので、これからも様々なことに挑戦していきたいと考えています。



神奈川大学／外国語学部／国際文化交流学科  
4年

■ 伊豆川 桃子

## 留学を通じて見えた世界

【はじめに】

神奈川大学外国語学部 国際文化交流学科4年の伊豆川桃子（いずかわ ももこ）です。韓国ソウルに位置する建国大学へ2021年8月10日から12月25日までの約4か月間、留学をしました。

私が留学しようと思った理由は日本で勉強している韓国語を実際に使って直接話したいと思ったからです。「日本と韓国は近くて遠い国」とよく言われますが実際、韓国人は日本や日本人についてどう思っているのかを自分の目や耳で確かめたいと思います、留学を判断しました。日本にいるだけでは見ることのできない世界や現地での新しい出会いによって視野が広がり、新しい価値観や考え方を持つようになることが海外で学ぶことの魅力の一つではないでしょうか。そのようなことを期待し、留学生生活をサポートさせました。また一人でも多く

の人と話して来よう、という強い気持ちのおかげで、留学先での学習により一層力が入りました。

## 「コロナ禍での大学生活」

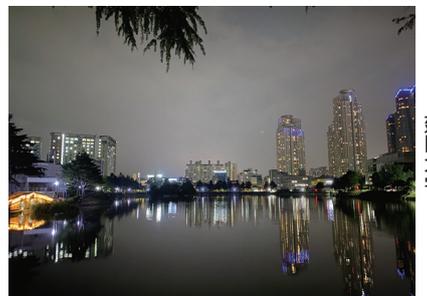
建国大学では学部授業を1学期間、並行して大学付属の語学堂で2か月履修しましたが、学部の授業は新型コロナウイルスの影響を受け、全てオンライン授業となりました。履修した4科目（中級韓国語・アカデミックイングリッシュ・ソウルの歴史と文化・英文構造解析）のうち、3科目（中級韓国語・アカデミックイングリッシュ・ソウルの歴史と文化）はオンデマンド型で自分の好きな時間に視聴ができ、1科目（英文構造解析）のみZoomを使ってリアルタイムで受講しました。

しかし、オンデマンド型授業でも先生方が学生同士の交流機会を設けてくださり、具体的には、「中級韓国語」では教授がラウンドで作ったペアで4回の課題に取り組みました。ペアの学生と直接会って韓国語の原稿を作り、それを読み上げ録音して提出しました。私はスペイン人の男子学生とペアで、課題がない日にも遊びに行くほど仲良くなりました。すべての授業がオンラインの為、友人を作る環境がなかったので、ありがたかったです。

また、「ソウルの歴史と文化」の教授は個



建国大学内で撮影した写真



建国大学

あつて、それを悪く言う人もいるけどそういう人に出会ったら「私は日本代表じゃありません」っていえばいいんだと話してくださいました。今までそのように考えたことはなく、植民地時代の話が出る度に複雑な気持ちになっていたので教授の話聞いて気持ちが軽くなりました。他にも、レポート課題のために韓国人の友人と西大門刑務所へ行った際も友人が「ひどい歴史だけれどあなたがしたことではないから」と言ってくれて嬉しかったです。これらの経験をj経て、国家レベルで関係が良くない時でも、個人単位での交流を大事にしていきたいと強く思いました。

発表課題では自分で録画をし、YouTubeに投稿して他の学生に共有しました。もちろん大学に通ってクラスメイトと教室で一緒に受講出来たら良かったのですが、この環境下でも教授が少しでも交流機会を作ろうとしてくださったおかげで寂しい想いはしませんでした。

Zoom上で受講していた「英文構造解析」ではオンライン上でグループワークをしました。授業は英語で開講されていましたが私以外は現地学生だったため、グループワークは韓国語でした。講義を受けてい

人的にお話する機会を設けてくださり、日本と韓国の文化や歴史について深く楽しくお話することができました。日韓には歴史的・政治的な問題が

くなかで、韓国の学生たちは積極的に発言したり、質問したりするというところに気が付きました。日本では義務教育の時期から目立つことを恐れて考えがあっても発言できない場合が多いと感じていましたが、その点韓国の大学では、学生たちが意見を出しやすい環境があると感じました。また、Zoomでは日本よりもカメラをオンにして受講している学生の数が多かった印象を受けました。授業一つをとっても、様々な文化的違いがあり、興味深かったです。

語学堂は2か月のうち、最後の3週間のみ対面授業を受講できることができました。クラスメイトに会って同じ教室で受ける授業はやはり活気があり、休み時間にはクラスメイトや先生と話すことができたのでオンライン授業よりも圧倒的に楽しく有意義だと感じました。中間試験と期末試験前はクラスメイトと集まってカフェで勉強会をしました。語学堂では世界中から来た様々な年齢の学生に出会えるので、各国の文化の違いを知ることができたり、共通言語が韓国語なので、スペイン人やロシア人の学生たちと韓国語で会話するという、不思議で貴重な経験をしました。

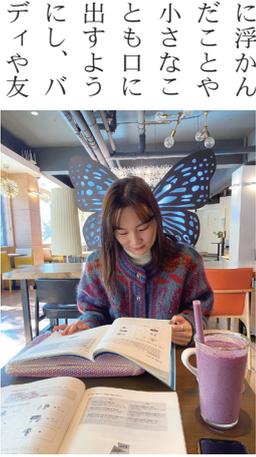
## 「ある1週間のスケジュール」

留学中のある1週間のスケジュールです。平日の暇な時間や週末は友人やバディと出掛け、韓国人の友人には今流行っている街やお店に連れて行ってもらいました。できるだけ多くの新しい経験をするため、また、韓国語を使う機会を増やすため、一人でも外出するように心掛けていて、韓国は個人経営のカフェが多いので、特に用がなくても一人でカフェを巡り、そこで勉強していました。

月曜日	9:00 - 12:50 13:00 - 15:00 15:00 -	語学堂 中級韓国語 (オンデマンド) 友人とカフェで勉強
火曜日	9:00 - 12:50 13:00 - 15:00 17:00 - 18:00 19:00 -	語学堂 アカデミックイングリッシュ (オンデマンド) 英文構造解析 (Zoom) 友人と夕食
水曜日	9:00 - 12:50 14:00 -	語学堂 友人とショッピング、夕飯
木曜日	9:00 - 12:50 13:00 - 15:00 18:15 - 19:45 15:00 -	語学堂 アカデミックイングリッシュ (オンデマンド) ソウルの歴史と文化 (オンデマンド) カフェで勉強
金曜日	9:00 - 12:50 13:00 - 15:00 18:00 -	語学堂 英文構造解析 (Zoom) 友人と夕食

【刺激的な日々】

毎日が刺激的でした。部屋から一歩出れば韓国語が溢れている環境にいつでも胸が高まっていました。留学前には「伝わりなかつたらどうしよう、私の実力つてどのくらい通じるレベルなのか」と不安がありました。韓国に着いてからはそのような不安を一切忘れ、ひたすら「伝えよう、伝えよう」と必死でした。実際に口に出すことが大切だと思っていたので少しでも頭に浮かんだことや小さなことも口に出すようにし、バディや友



大学近くのカフェでの試験勉強

達には分からないことがあればすぐ聞くようにしていました。

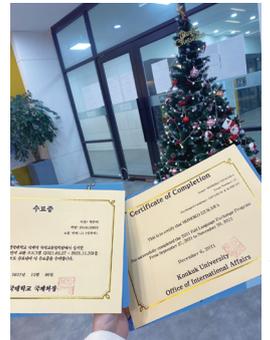
コロナ禍で苦労したことは、感染拡大防止に関する政府の施策が頻繁に変わるため、飲食店の営業時間や入店可能な人数制限などを把握することでした。2021年12月中旬からはワクチンを接種していない人は二人以上での入店が禁止となりました。このことに関しては、幼い子供や持病への悪影響が心配で接種できない人には厳しいルールだと怒っている友人が沢山いました。賛否両論ありますが、私が受けた印象は、終わりが見えない中でも韓国は様々な取り組みを行っているなと思いました。韓国では入店時にQRコード認証が必須の為、感染経路の特定が容易にでき、日本も感染経路を明確にするため、同様のシステムを導入するべきだと思いました。

【留学生生活を終えて思うこと】

このようなか、留学を実現してください。た神奈川大学、そして受け入れてくださった建國大学には感謝の気持ちでいっぱいです。最近ではオンライン留学もあり、メリットも多くあるかと思いますが、やはり留学の最大の魅力は現地での生活することだと思います。その国で学ぶからこそ分かること、感じることや、実際にその国で暮らして、その国の人々と交流をすることで経験できることが沢山あります。

実は本来、私は2020年3月から12月の10か月間にわたる留学を行う予定でした。しかし、3月に渡航してからすぐに新型コロナウイルスが蔓延し、わずか10日間で帰国することになりました。留学がしたくて留学制度の充実した神奈川大学を志望したほどに留学に対する想いは高校生の時

バディの学生ともらった修了証



からとても強かったため、その計画が想像もしていなかったウ

イルスに台無しにされてしまい、一時は本当に辛かったです。しかし、諦めきれず、ラストチャンスである4年の後学期までにその想いを国際センターの方々に改めて伝え、そして、国際センターの方々のおかげで実現することができました。未曾有の事態であるこの時期に学生を送り出すことは簡単なことではないにもかかわらず送り出してくださいました。10か月間の留学が4か月になってしまいました。それでも実現できて本当に良かったです。

私の人生の中でこの4か月間は本当に多くのことを経験し学んだ濃い4か月間でした。一日一日が宝物で、日本にいた頃には想像していなかった素敵な出会いに溢れていました。バディを担当してくれた建國大学の学生には様々な場所に連れて行ってもらいました。日本に興味がある学生だったのでお互いの言葉や文化を教え合うのが楽しかったです。また、大学近くのカフェのオーナーさんは、勉強をしていると美味しいクロッフル(韓国で流行しています)をサービスしてくれたり、クリスマスが近づくと内装をクリスマスバージョンに装飾する手伝いをさせてくれたり、大変よくしてください

語学堂のクラスメイトと先生と修了式に撮影した写真



いました。そして、語学堂や中級韓国語のクラスではスペイン、ベトナム、中国、ロシアなど世界中の学生と仲良くなり、ここでは書ききれないほど多くの人との出会いがありました。

これらの出会いを通じて、年齢・言葉・国一切関係なく素敵な関係を築けること、積極的に自分から行動することの大切さを実感し、知らなかった異国の文化などを深く理解することができ、4か月とは思えないほど充実した留学生活でした。

また、日本への留学再開を期待する韓国人学生、すでに諦めざるを得なかった韓国人学生、そして日本を諦め、留学先を韓国へ変更したスペイン人学生のやるせない気持ちを直接聞いて胸が痛くなりました。私は幸運にも実現できましたが、もし今回も留学できていなかったら諦めきれなかったと思います。3回の留学延期を経験し、彼らの気持ちは痛いほど分かります。



友達と行ったヨンナムドンのカフェ



クラスメイトと勉強中にオーナーさんにいただいたクロッフル

す。多くの場合、留学は大学生の時では経験できないことのうちの一つで、大学生活にはタイムリミットがあります。今回の経験を通じて、留学のすばらしさを改めて感じたからこそ、彼らの留学がいつか実現することを、切に願っています。

最後に、繰り返しになりますが、私がこの4か月間で経験したことは留学をしなれば経験できないことばかりです。毎日が新鮮でとても充実していました。様々な学生との交流を通じて、同じ大学生でもそれぞれが様々なものの考え方を持っているなと感じました。自分の当たり前が覆されたり、新しい視点で物事を見ることができたりして、視野が広がったと感じます。語学力だけでなく、様々な部分でこの留学を通して大きく成長できたと確信しています。このとても濃い4か月間で経験したことを、これからの人生に活かしていきたいです。



武庫川女子大学／健康スポーツ科学部／健康スポーツ科学科  
3年

渡邊 果音

## 武庫川女子大学アメリカ分校 夏期オンライン留学について

2021年8月17日(火)～8月28日(土)

### オンライン留学で学ぼうと思った理由

英語を学びたいという気持ちはもちろんですが、何より学生だからこそできる新しい挑戦がしたいという思いが強くなったからです。本校には様々なプログラムやイベ

ントがあり、自ら動き出す事ができれば自身の可能性を広げるチャンスは多く用意されていると感じています。学生、そして本校の学生だからこそ挑戦できることにとても惹かれ、このプログラムに参加してみたいと思いました。

また、私は地元が大分県で、帰省した実家から留学に参加していました。アメリカに実際に足を運びたい気持ちはありましたが、なかなか会えない家族、愛犬と一緒に生活を送る中、オンライン形式で英語の勉強ができるということが私にとって最適なプログラムだったと感じています。

### 授業の様子

・Zoom

ブレイクアウトルームを利用して2～3人に割り振られ、英語でテーマについて話します。先生が回ってきてくれてアドバイスをくれました。

ブレイクアウトルームに割り振られた時間の中で、一緒になった学生とお互いのことを話したり、英語を教え合うなどコミュニケーションを取りました。

・ライブ

野球、自然、マーケット、ダウンタウンという4つのトピックスが設けられ、トピックスに合わせた場所に現地の先生が実際に足を運んでくれてライブの様子を伝えてくれました。

自分もその場に行っているかのような気分が体験でき、すごく印象に残っています。先生は学生の質問や発言に対し、常に優しく明るかったです。

なかなか言葉の出でこない学生に対しては前向きな気持ちになるようにアドバイスを声かけをしてくださいました。

### 1週間のスケジュール (授業やアルバイト、趣味など、全般的なこと)

1日	7:00～	起床・準備
1限目	8:30～10:00	
2限目	10:15～11:45	
お昼休憩		
3限目	12:15～13:45	
14:00～17:00	自由時間・買い物	
17:00～	愛犬と散歩	
18:00～	夕食	
23:00～	就寝	
1週間	火曜日～土曜日授業 日曜日・月曜日休み	

### 日常生活

2週間のオンライン留学期間では、日常よりも英語を耳にする時間が多い分、その日耳に残ったフレーズや新しく学んだ表現方法を復習するように暗唱したり、授業の終わりや休みの日に単語を覚えるために簡単なノート作りをしていました。オンライン留学を通じて他学科の友達とLINEを交換し、「明日も頑張ろう！」と励まし合っていたこともとても良い思い出です。

2週間という時間でしたが、授業が終わると、おばあちゃんの家に行つてゆっくりお茶をしたり、愛犬と遊ぶなど、1日の中で英語に触れ合う時間もあつた、楽しい時間もありました。休みの日・月曜日には、大好きな映画鑑賞をしたり、自然な場所に家族とお出かけをしたりとリフレッシュできる時間を過ごしました。

### コロナ禍での勉強について

私はコロナ禍で外に出掛けることの出来ない生活が続く中、語学の学びと共に資格

取得に向けての勉強を始めました。1人暮らしのため、誰とも会えない時間はとても寂しい時間でしたが、その寂しさを紛らわすため、そしてこの時間を無駄にはしたくないと思ひ、勉強に励みました。語学ばかりでは勉強がうまく進まず、集中力が途切れることもありましたが、全く異なる資格の勉強にも取り組むことで気分転換にもなり、気持ちの切り替えができていたのではないかと感じています。

また、そんな生活の中の息抜きとしては、ギターを弾いたり、映画を観て過ごしていました。ギターでは英語の勉強にもなるように洋楽を弾いて練習したり、映画は洋画を英語のまま見ることでも少しでも語学に触れる時間をとろうと心がけていました。

1日1日を少しでも充実させるために、その日に必ずやることリストを作成して取り組むことで達成感を得ることはコロナ禍でのモチベーションの維持に繋がりが、今でもその習慣を取り入れながら生活を送っています。

### オンライン留学で感じたこと

留学が始まるまで全ての授業が英語で行われるというのに対し、自身の英語の理解力に不安がありました。しかし、始まつてみると英語は例え単語だけであっても相手の意思を読み取ろうと意識を向ければ伝えたいことは伝わるし伝えることができるということを感じました。また、オンラインでの実施で大変だったと思うことは、互いのことを知らない他学年、他学科の学生とのコミュニケーションでした。初めは英語で話さないといけない、何を話そう、と考えなければならぬことが多くあつたことでなかなか打ち解けられずに時間が過ぎ



オンライン授業の様子

てしまうことがあります。しかし、回数を重ねるにつれて英語が少しずつ自然に出てくるようになったり、互いの名前や人柄を知り、共通の趣味を見つけて盛り上がる等、徐々にブレイクアウトルームにも楽しみを感じるようになりました。互いに慣れてきた頃にプログラムが終わってしまったので寂しい思いはありましたが、SNSを通じてプログラム終了後も繋がりを作れたことは参加して良かったと思える理由の一つです。オンライン留学を通じて英語力はもちろん、コミュニケーション力も高めることができ、とても貴重な時間だったと感じています。

### オンライン留学を終えて

私はこのオンライン留学を通じて、語学・海外への興味がより強くなりました。現在もTOEIC試験の受験や、学内のエクステンション講座へ参加し、語学の勉強に継続して取り組んでいます。また、私

は今年の夏、1ヶ月の短期留学に行くことが決まっています。オンライン留学に参加するという決断は私にとってとても大きな1歩となり、その決断から私の見える世界は確実に広がったと感じています。私のこれからの目標は大学卒業までにTOEIC 750点を突破することです。必ず目標を達成し、オンライン留学、そしてこれから経験する現地での経験を大きな力にして、さらに自身の可能性を広げるための挑戦を大学卒業後も続けていきたいと思っています。

大学生活では、興味関心のあるものにとんだん飛びついて、今まで関わりのない場所にも足を踏み入れてみるのがとても大切だと私は考えています。そこから学ぶこと、気づくこと、見えてくるものが必ずあります。ぜひ、より多くの学生に自身の可能性を信じて知らない世界に飛び込んでみてほしいと思います。



武庫川女子大学短期大  
学部／英語キャリア・  
コミュニケーション学  
科2年

■前北 莉杏

### オンライン留学について

#### 1. 英語を学ぶきっかけ

私がおもって英語を話せるようになりたいと思ったのは、高校2年生の夏休みにアメリカの学生親善大使の女の子が私の家でホームステイをした時でした。思う様に英語を話すことが出来ず、言いたいことが伝わらないことにとってもどかしさを感じ、もっと英語が話せるようになりたい、様々

な国の人々と交流したいと考えるようになり、大学で英語を専攻することに決めました。

2020年4月、私は短大で学科全員が留学することが出来る制度に魅力を感じて武庫川女子大学に入学することを決めました。しかしながら、新型コロナウイルスの世界的な流行により、楽しみにしていた1年生後期のアメリカ留学がオンライン留学に変更と連絡を受けました。

#### 2. オンライン留学とは一体何？

オンライン留学が一体どのようなものなのか皆さんも不思議に思うでしょう。私も初めてアメリカ留学がオンラインで実施されますと連絡を受けたときは、理解が追いつきませんでした。私の大学では、アメリカ分校の先生方と10人程度の少人数授業で、1日3時間、火曜日から土曜日の午前9時〜14時のスケジュールで授業が行われました。Zoomによる対面型授業と、Independent Studyという出された課題を授業時間内にする遠隔授業の二つの授業形態でした。5〜6のクラスがあり、アメリカの文化を学ぶAmerican Study、ビジネスの様々な状況で流暢に英語を話せるようになることを目指すBusiness Conversationなど様々なクラスがありました。4か月間のオンライン留学では、まず初めに、教科書に沿って読解力や文法・語彙等の基礎を学習しました。その後、Zoom上のブレイクアウトルームを使い、何人かで画面共有をしながら英語でゲームをしたり、ペンパルというアメリカの高校生とメールのやり取りをしたりと、習った英語表現などをアウトプットする機会が多く用意されていました。インプットとアウト

プットが交互に出来る工夫されたカリキュラムがとても楽しかったので、私は、2年生の後期もオンライン留学プログラムに参加することを決めました。

私自身が2度のオンライン留学を経験して感じたのは、飽きずに楽しく英語を学習することが出来たという事です。なぜなら、カリキュラムがとても考え抜かれていたからです。1例を挙げると、アメリカ式就職活動について学んだ時に、最初の授業で日本とアメリカの就職活動の違いをクイズで学び、興味が出てきたところで英語の履歴書の書き方を学びました。その後、実際に自分自身の履歴書を書いてアウトプットするという流れでした。1つ1つの授業の先生は違うのですが、要所所で授業内容がリンクしているので突然分からない難しいことをするのではなく、基礎から実践へと段階を踏んで進んでいきます。そのおかげで、挫折したり心が折れたりという苦手に英語に



Bussiness Conversation Class 授業風景

Try Something New for 30 Days!

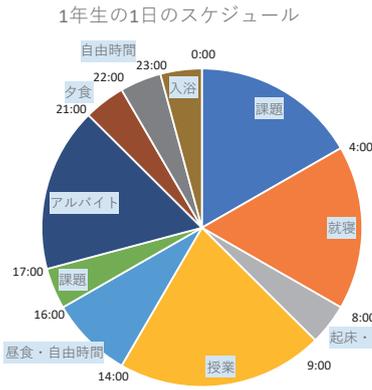
	Mon	Tues	Wed	Thurs	Fri	Sat	Sun
<b>Rian</b>	NO	NO	Yes	Yes	Yes	NO	NO
A hour of either exercising or studying before class!	NO	Yes	Yes	NO	Yes	NO	NO
	Yes	Yes	Yes	NO	NO	NO	Yes
	NO	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
	Yes	Yes					

実際に目標を立てて30日達成できたかどうかをまとめた図

識を持つことなく最後まで楽しみながらできたのだと思います。その結果、実際に私のグループでは誰一人として授業を欠席せずに学期を終えることが出来ました。

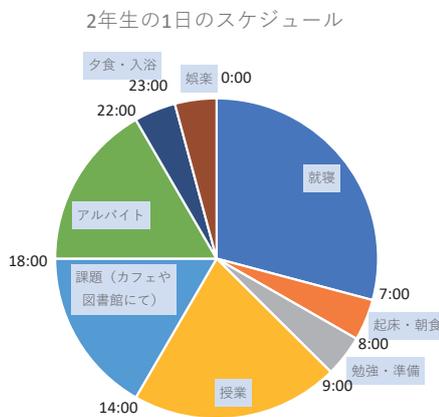
3. 1日の主なスケジュール

1年生の時は初めてのオンライン留学でどうすればいいのか分からなくなり、かなり大変な生活を送っていました。今になって思うのですが、1つ1つの課題に時間を割き過ぎていたように思います。その時の1日のスケジュールがこちらになります。



2年生の時は1年生の時の生活習慣の乱れを考慮して大幅に1日のスケジュールを変えことにしました。私が意識したのは、ONとOFFの切り替えをすることです。決して効率が良いとは言えない私心がけたことは大きく2つです。1つ目は、遅くとも23時には就寝態勢をとることです。1年生の時は課題が終わらないがために夜の2〜3時までパソコンを見つめていることが多かったです。そのため、良い睡眠をとることが出来ず、ひどく疲れたまま授業を受けなければならぬ状態でした。私は授業を集中して受けることに重きを置き、課題が終わっていないくとも23時には寝るようにはしました。また、朝7時に起きる習慣を作ることで8時間の十分な睡眠と授業前に2時間の自由な時間を得ることができました。また、朝にすっきりとした脳で考えることで、素早く課題を終わらせることが出来ました。課題が終わっている日は先取り学習や洋楽を聞いて、授業前に脳を日本語から英語に変えることができたので、1限目からしつかり集中することが出来たという良い点もあります。2つ目は、小さな目標を立てるということです。まず、学期を通して達成したい大きな3つの目標を掲げます。それではあまりに遠すぎる目標なので、そこに到達するための1週間の小さな目標を毎週月曜日に考えるようにしました。この目標はより具体的に達成しやすいものにします。例えば、提出期限の24時間前にすべての課題を提出する、毎回オフィスアワーに参加する等です。小さな目標を達成していくことで成功体験をたくさん重ねられます。自信をつけることが1人でオンライン授業を受けていく上でとても大切であったと思います。闇雲にひたすら努力

しているだけでは、自分がいったい何をしているのか、振り返った時に足跡がないので不安になります。それを回避するために小さな目標を立てることが重要だと考えます。またその目標を記録としてスケジュール帳やメモなどに残しておくと思いいます。2年生の1日のスケジュールがこちらになります。



4. オンライン留学を通しての学び

私はオンライン留学前は、あまり語学力の伸びが期待できないのではないかと考えていましたが、writingの授業で行っていた10分間のFree writingでは、4か月間で170 words程度から250 words程度まで単語数が伸び、TOEICでは150点伸ばすことが出来ました。実際に私自身が感じた英語の伸びは特にSpeakingとListeningです。授業内でアメリカの先生の知り合いの方と会話をするゲストデーというアクティビティがありました。そこで回を重ねるごとに自分が話したいことが言えたり、相手の言葉を1回でしつかり聞き取れるようになりました。

また、家で私の授業の様子を見ていた家族からも「とても話せるようになった」と言われることで自信もつきました。この様にオンライン授業でも英語力を伸ばすことが出来たのは、自分自身の力だけでなく、アメリカ分校の先生方がこのコロナ禍でも私たちがしつかりと力を付けることが出来るように考え抜かれたカリキュラムを準備してくれたこと、また授業外でもオフィスアワーなどの英語を話す機会を沢山用意してもらえたこと、そして一緒に学んでいたクラスメイトたちが英語を話すことを恥ずかしがったり、日本語を話したりせずしつかりと取り組んでいることから刺激を受けることが出来たからです。

英語と日本語は異なる言語ですが、話せば話すほど自分自身のモノになると思います。難しい単語も読めなければ書けません。また、知っているだけでは使うことはできません。英語は何度も何度も会話の中で使っていくことで身につけていくことが出来る、先生方から教わりました。オンライン授業は日本で授業を受けるため、1日中英語漬けになることはできませんが、本人の意志や、やる気次第で英語力はしつかり伸びます。私は、英語だけでなく、どのタイミングで自分が1番集中できるのかや、効率の良い勉強法を編み出し、自分自身の生活スタイルをこのオンライン留学期間に確立することが出来ました。この期間に学んだことを編入後の大学生活でも活かしていきたいと考えています。